

# 国富町立本庄中学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

本校は、国富町の中心部に位置する生徒数 302 名の中規模校である。学校のシンボルであり校歌にも歌われた本庄川が近くを流れ、緑豊かな環境に恵まれている。また、町役場をはじめとする公共施設も近隣にあって、校内外での学習活動に適した諸条件を備えている。

昭和 22 年の開校以来、40 年代をピークに生徒数は減少しているが、農林業を中心とした活気ある町づくりが行われる中、学校教育に対する行政や地域社会からの支援も手厚く、校内の施設設備も充実しており、その中で、生徒たちは明るい学校生活を送っている。

## 2 生徒の実態

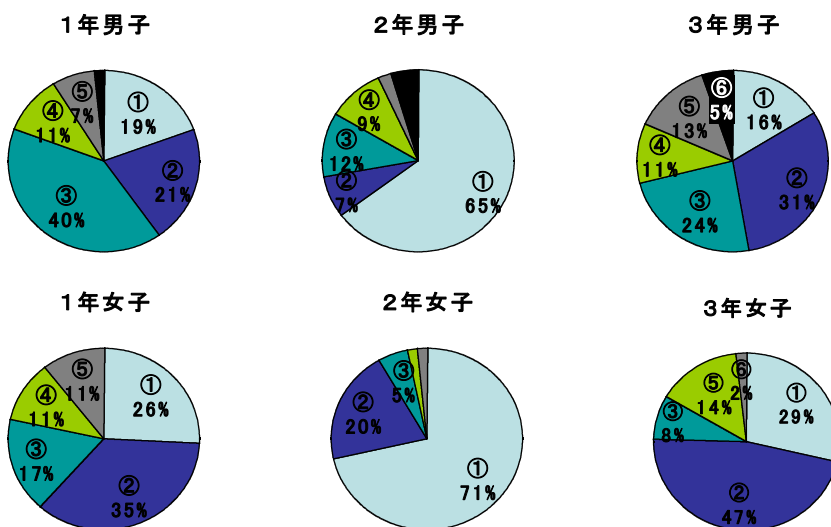
家庭や地域社会からの暖かなまなざしを受け、生徒は純朴かつ素直に成長している。学習に対する姿勢も真摯で、授業にも積極的に取り組んでいるが、家庭での学習習慣が身に付いていない生徒が多く、これが学力向上の阻害要因となっている。

以下は、本年度はじめに実施した学習に関するアンケート調査（全 11 項目）の中から、特に落ち込みの見られた内容項目を拾い上げたものである。

この実態を踏まえ、本校では、今後の指導・支援において、特に「教科ごとの苦手意識を解消させること。」「家庭での学習量を増加させること。」「効果的な自学の方法を身に付けさせ、成就感を味わわせること。」などに力を入れていきたいと考えている。

### 家庭での学習習慣について(各学年男女別の割合)

- ① 毎日必ず取り組んでいる。
- ② 一週間のうち 5～6日は取り組んでいる。
- ③ 一週間のうち 3～4日は取り組んでいる。
- ④ 一週間のうち 1～2日は取り組んでいる。
- ⑤ テスト前など、特別の時しか取り組んでいない。
- ⑥ 全く取り組んでいない。



### 学習に関する悩みについて(全生徒に占める悩みを持つ生徒の人数)

○ 宅習の仕方がよく分からない。



○ 宅習をしても、思ったように効果が上がらない。



○ 宅習をしようとはするが、面倒になってなかなか長続きがしない。



○ 宅習をするとき、教科ごとに偏りがある。



### 3 学力向上に向けた経営方針

本校では、「心身ともに健康で、自らをきりひらく、たくましさと思いやりのある生徒の育成」という教育目標の具現化に向け、学力向上と基本的な生活習慣の育成を一番の教育課題として、日々の教育活動に当たっている。

学力向上に向けた経営方針としては、「21世紀を迎え、新しい時代に即応した学校の教育目標の達成を目指した教育課程の編成・実施を推進する。」を掲げ、生きる力の基盤となる確かな学力の育成を目指している。

### 4 教育課程内の取組

#### (1) 取組を充実させるための手立て

先に述べた学習に関する実態を受け、本年度からの3カ年計画で、学力向上に向けた校内研究を行い、教育課程内・課程外の取り組みを充実させようと考えている。

特に本年度は、その初年度ということもあり、実践の見直しをもとに共通実践の基盤を整備し、2つの観点による実践の再構築を行うことで、この主題に近づこうと考えている。

研究主題、及び仮説から研究内容に至る本年度の研究構想は以下の通りである。

研究主題	「自ら学び、確かな学力を身につける生徒の育成」
副題	～ 各教科、特別活動における自学支援の工夫を通して ～

研究の仮説	
<p>・自主的な学習態度の育成のために必要とされる日常の実践の見直しを行い、それを基盤として、各教科の学習指導の中で、教科の特性に応じて生徒一人一人の実態にあった効果的な「自学」の方法を身につけさせる工夫を行うならば、自ら学び、確かな学力を身につける生徒が育成できるであろう。</p> <p>・自主的な学習態度の育成のために必要とされる日常の実践の見直しを行い、それを基盤として、生徒会活動や学級の活動を中心とした特別活動の中で、生徒の主体的な取り組みを生かしながら、生徒自らの力で「自学」の習慣化を推し進めさせるような指導・支援の工夫を行うならば、自ら学び、確かな学力を身につける生徒が育成できであろう。</p>	
研究の視点	
(1) 学習指導の在り方の研究	(2) 生徒会，学級の活動を生かした指導の在り方の研究
研究内容	
(1) 学業訓練に関わる指導事項を整理し、各学級における「自学」の奨励や家庭に対する学習情報の提供なども含めて、自主的な学習態度の育成のために必要とされる内容の日常的な共通実践をはかる。	
(2)－①〔視点(1)との関連〕 各教科の特性に応じて生徒一人一人の実態にあった効果的な「自学」の方法をどう身につけさせていくかを考え、学習指導の中に「自学」を支援する手立てを具体的に組み入れる。	(2)－②〔視点(2)との関連〕 生徒会活動や学級の活動を中心とした特別活動の中で、生徒の主体的な取り組みを促し、互いに励まし合い、高め合うような学校の雰囲気づくりを行わせ、生徒自らの力で「自学」の習慣化を推し進めさせるような指導・支援の工夫を行う。

## (2) 本年度の取組

教育課程内の取組については、上記の研究内容(2)－①、及び(2)－②によって、より効果的な実践を模索している。本年度の主な取組は以下の通りである。

### ① 効果的な自学の方法を身に付けさせるための授業研究

以下の研究の柱に沿って、効果的な自学の方法を身に付けさせるための授業研究を継続している。自学につながる板書の工夫や発展的な課題の提示など、具体的な手立ての構築を進めているところである

#### 「授業研究の柱」

自学への橋渡しとなる具体的指導・支援の手立てはどうあればよいか。

### ② 「学習のしおり」の作成と活用

学校や家庭における望ましい学習の方法を提示するために、各教科で「学習のしおり」を作成し、配布すると共に、学級における指導に活用している。

### ③ 効果的な宅習例の掲示〔学習委員会の活動を通じて〕

学級担任の指導のもとで、各学級の学習委員に効果的な宅習の例（生徒の宅習ノートを本人の了解を得てコピーしたもの）を掲示させ、優れた部分を賞賛すると共に、宅習のポイントについての指導を各学級で行っている。

④ 各教科の学習内容に関する資料の掲示〔視聴覚委員会の活動を通じて〕

定期テストに向けての取り組みとして、学年の視聴覚委員に学習資料を掲示させている。内容を十分に吟味するため、教科担任の指導のもとで作成させている。

⑤ 予想問題の作成と配布〔学年委員会の活動を通じて〕

各学年の学年委員に定期テストの予想問題を作成させ、配布させている。内容の指導は教科担任が行い、全体的な動きについては学年主任が指導している。

⑥ 帰りの会におけるミニ勉強会〔各学級の活動を通じて〕

各学級で発表の順番を決め、生徒自らが考えた問題を帰りの会で出題させている。問題数は3問程度で、内容は既習のものとし、全員が出題者となるよう配慮している。

## 5 教育課程外の取組

教育課程外の取組については、上記の研究内容(1)によって、自学支援の方法を見直し、共通実践を図るという観点から、以下の取組を中心に行っている。

(1) 宅習帳の点検と賞賛、アドバイス

宅習帳の提出を義務づけ、学級担任がこれを点検し、各人の努力を賞賛している。内容に関する指導では、連携を密にし、教科の専門性を生かした指導が行えるよう配慮している。

(2) 学級担任と教科担任の連携強化

上記にも関連して、連携を密にしていくために、「学習サポート連絡表」を作成し、活用している。各指導者が捉えた生徒の実態を所定の用紙に記入し、これを交換するもので、個人情報への漏洩を避けるため、職員専用のプリント棚を活用している。

## 6 保護者・家庭、地域との連携

研究内容(1)によって、以下の実践を行っている。

(1) 学年通信を通じて、各教科の学習予定を各家庭に知らせている。

(2) 参観日の懇談に家庭学習に関する話し合いを位置づけている。出された意見については、学習指導部で集約し、全職員の周知を図っている。

(3) 教科と学級の連携をもとに、必要に応じた相談活動を進めている。

## 7 成果と課題（次年度の取組を含む）

学力向上に関する研究もまだその緒についたばかりではあるが、多くの生徒に自学の習慣化がなされてきたことは、実践による成果の一つだと考える。

今後の課題としては、以下の見通しに沿って研究実践を進め、学力の向上を図ることが上げられる。次年度以降もさらに効果的な取組を模索して行きたい。

2 年 次	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「自学」を支援することを中心に、「自主的な学習態度の育成」を進めるという立場から、研究の視点についての見直しを含め、効果的な実践の手立てについての検討を進める。</li><li>○ 初年度の成果を活用しながら、課題に沿った研究実践を継続し、「自学」を支援する仕組みの全体構想を策定する。また、研究の中で得た具体的な実践の手立てについて、汎用がかなうよう一般化の方策を練る。</li></ul>
-------------	--